

2-4 気候変動による節足動物媒介感染症リスクの評価(ヒトスジシマカ/アカイエカ成虫の対策優先度)

大項目	小項目	チェック	チェック項目	備考
影響予測手法 及び予測結果	(影響予測手法) 現況の再現性		現況を再現できている	予測結果の現況値が把握困難であるため、現況再現は実施していない。
			現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があった	
		○	現況再現を実施していない	
	(影響予測手法) 他地域での応用可能性		気候シナリオを入れ換えれば、他地域でも実施可能	生息期間を算定するために必要となる日平均気温のデータに加え、社会経済条件に係わるデータとして人口データ・緑地データが必要となる。
		○	気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域でも実施可能	
			本調査の対象地域のみ利用できる	
	(影響予測手法) 応用に必要な技術レベル		多くの行政担当者が自ら実施可能である	気候シナリオおよび、人口データや緑地データを扱うことができる者のサポートが必要となる。
		○	気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタントや研究者のサポートが必要	
			研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	(影響予測結果) 活用可能性		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	地域外から流入する人口については、指標の一つとして地域の宿泊客数を示しているが、地域によっては港湾・空港から人が大量に流入するなど、その地域に応じた人の流れを考慮する必要がある。 また、緑地について将来にわたって現状と一定と仮定しており、地域の将来の緑地計画等があれば考慮する必要がある。
		概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める		
○		行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必要		
適応オプション	適応策の妥当性		革新的な適応策を提示できた	感染症媒介蚊対策・感染症発生時に備えた対策を整理したが、いずれも気候変動とは関係なしに、各主体が取ることができる適応オプションである。
			影響予測結果に対応した適応策を提示した	
		○	影響予測結果と必ずしも一致しないものも含め、分野の一般的な適応策の提示を行った	
	導入可能性		他地域で実施・導入が可能である	感染症媒介蚊対策・感染症発生時に備えた対策として他地域でも実施・導入可能である。
			本調査の対象地域でのみ実施・導入が可能である	
			本調査の対象地域で導入するには、さらなる調査、検討が必要である	
	他分野との関連性		他分野に相乗効果や副次効果が生じる	・自然生態系や近隣住宅への影響を考慮して殺虫剤・薬剤を散布する際には、適切な用量・方法で実施する必要がある。 ・熱中症の適応オプションの一つである緑地の設置が挙げられるため、緑地の設置は蚊成虫の生息場所を増加させる可能性があるため、これを回避するためには緑地を適切に整備する必要がある。
			対象分野のみに効果がある	
		○	他分野にマイナスの影響を与える可能性があるため、導入の際に留意が必要である	
	適応策の多様性		○	適応オプションを多様な視点から5つ以上提案できた。
			適応オプションを5つ以上提案できたが、調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られていた	
			調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られたため、提示できた適応オプションも限られた	

(※1) 現況の再現性とは、現在の状況を予測モデルが再現できている度合いのこと。通常、将来予測を実施する前に、モデルの妥当性を確認するため、現在の観測値等を利用して、予測モデルが現在の状況を再現できているか確認している。